

ゆっくり食べて おしゃべりして

居場所づくり丸岡で3年

坂井市丸岡町の丸岡バスターミナルで毎月一回、弁当などを配布している「えが子ども食堂」が、今月で活動開始から三年を迎えた。今月もコメや野菜、お菓子、生理用品などを無償で配り、百円で弁当を配布した。代表の山本弥生さん（同市春江町）はこの取り組みが、訪れる人にとっての「一つの居場所になればうれしい」と願う。（藤共生）

えが子ども食堂

今年二月二日。丸岡バスターミナルの広場には、たくさんのお子連れが集まった。三十六個用意した生理用品は次々となくなつた。「助かります」と感謝の言葉が聞こえてきた。巨大シヤボン玉づくりで遊ぶ子どもたちも楽しそう。ボランティアスタッフの石川直也さん（同市立大二年）は「子ども達の笑顔が見られて楽しい」と充実した表情を浮かべた。



新型コロナウイルスの感染拡大によって屋内での開催が難しくなつたため、昨春から丸岡バスターミナルに場所を移した。現在は毎月第四日曜日の午前十時から午後一時まで開催する。事前に申し込んでもらい、外注した弁当を一個百円で配布。毎回約四百個、およそ八十世帯が弁当を受け取る。訪れた人を楽しませるため、広場には楽器隊や馬車なども登場する。

代表の山本さんは「あらゆる人にとつての居場所になれば」と期待を込める。活動の中で乳がん患者の母親に出会ったり、うつに苦しむ母子家庭の母親に会つたりした。「家計やしんどさは表からは見えない。ゆっくり食べて、おしゃべりして帰れば、それで十分だと思つ」と話した。

今後も活動を続けていくつもりだ。近年は坂井市内でも子ども食堂を行う団体が増えてきた。山本さんは「こつこつとした居場所づくりがさらに広まってほしいと思つ」と話していた。

来場した親子に弁当を受け渡すボランティアスタッフ（左）坂井市の丸岡バスターミナルで